

高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第5週（1月29日～2月4日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

高知県全域で警報値である 30.00 を超えています。

定点医療機関当たりの報告は第4週の53.65から、第5週は66.19と増加し、引き続き警報値を超えています。県全域から報告があり、幡多、須崎、中央東で増加し、幡多、中央西、高知市、須崎、中央東で警報値を、安芸で注意報値を超えており、過去5年間と比較しても最も高い値となっていますので引き続き注意して下さい。

また、学校等における集団発生の報告でも学年閉鎖、学級閉鎖の報告が続いています。

インフルエンザ定点医療機関における迅速診断ではインフルエンザA型の割合が28.0%、インフルエンザB型の割合が72.0%となっています。

病原体検出情報では、第5週に搬入された検体からInfluenza virus A H1pdm09が1例、Influenza virus AH3 NTが3例、Influenza virus B/Yamagataが1例、第4週に搬入された検体からInfluenza virus A H1pdm09が1例検出されています。異なる型の流行がみられるので、複数回感染することも考えられます（詳細は★病原体検出情報に記載）。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第52～2018年4週）ではB（山形系統）の検出割合が最も多く44.8%、次いでAH1pdm09が28.3%、AH3が23.3%、B（ビクトリア系統）が2.4%、B（系統不明）が1.2%の順でした。

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
学級閉鎖	第5週	3	3	23		1	4	34
	累計	7	8	57	2	2	7	83
学年閉鎖	第5週	2	2	1	5	4	3	17
	累計	8	4	14	14	17	10	67
休校	第5週					1		1
	累計					1	2	3

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2018年第5週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前		7週前	
	第5週		第4週		第3週		第2週		第1週		第52週		第51週		第50週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	66.19	△	53.65	△	64.08	△	31.73	△	18.79	○	11.81	○	4.38	-	1.33	-
安芸	26.50	○	26.75	○	31.50	△	16.00	○	6.00	-	3.00	-	0.75	-	0.25	-
中央東	54.73	△	39.45	△	54.09	△	25.73	○	8.91	-	6.00	-	2.55	-	0.27	-
高知市	71.44	△	63.81	△	73.38	△	36.50	△	21.69	○	15.81	○	5.88	-	1.44	-
中央西	73.80	△	73.20	△	88.00	△	37.80	△	17.40	○	13.00	○	5.60	-	5.60	-
須崎	61.00	△	48.75	△	65.00	△	40.25	△	15.50	○	9.75	-	5.50	-	0.50	-
幡多	89.13	△	56.50	△	60.13	△	30.25	△	35.50	△	16.50	○	4.38	-	0.88	-

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

<インフルエンザにかからないために>

- 1) 咳エチケット：咳やくしゃみを浴びないようにするためにマスクをしましょう。
- 2) 外出後の手洗い：インフルエンザウイルスを流水・石けんで除去しましょう。
- 3) 人混みや繁華街への外出を控える：特に高齢の方や基礎疾患のある方は注意しましょう。
- 4) 休養と栄養摂取：体の抵抗力を高めましょう。

<かかったらどうする>

- 1) 医療機関を受診：体調不良の時には、早めに医療機関を受診しましょう。
- 2) 休養と睡眠（水分補給）：安静にし、休養をとりましょう。
- 3) 外出をひかえる：無理して職場や学校に行かないようにしましょう。
- 4) 咳エチケット：周りの方へうつさないように、マスクをしましょう。

※小児、未成年者では、インフルエンザの罹患により、急に走り出す、部屋から飛びだそうとする、ウロウロ歩き回る等の異常行動を起こすおそれがあります。自宅療養する場合、インフルエンザと診断され治療が開始された後少なくとも2日間は小児・未成年者が一人にならないなどの配慮が必要です。

厚生労働省 インフルエンザ（総合ページ）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/index.html

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第4週の3.53から第5週では3.07と横ばいです。県全域から報告があり、高知市で減少していますが、幡多、中央西で増加しています。

定点医療機関からのホット情報では、ノロウイルス4例、ロタウイルス1例、細菌の病原性大腸菌を原因とする胃腸炎の報告3例の報告があります。

病原体検出情報では、第5週に須崎から搬入された検体からNorovirus GII NTが1例、中央東から搬入された検体からSapovirus genogroup unknownが1例、第4週に中央東から搬入された検体からNorovirus GII NTが1例検出されています。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも35例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、1年を通して発生していますが、特に冬季に流行します。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度便中にウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

<予防方法> 感染予防の基本は手洗いです

人への感染経路は、主に経口（食品、糞便）です。食品を除けば大半が手に付着したウイルスが口に入って感染します。感染防止策は「手洗い」が基本ですので帰宅時・調理前・食事前・トイレの後に石けんを使ってよく手を洗いましょう。また、感染した人の便や吐物には、大量のウイルスが含まれていますので直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認した上で使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）また、調理をする場合は、十分加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関するQ&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○百日咳に気を付けて！

第5週に百日咳の発生届けが須崎福祉保健所管内から5例と報告が続いており、2018年にはいって合計18例の報告となっています。

百日咳は、①通常5～10日（最大3週間程度）の潜伏期を経て、通常風邪症状から次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。（カタル期）②短い咳が連続的に起こり（スタッカート）続いて、息を吸う時に笛の音のようなヒューという音がでます（ウーブ）。この様な咳嗽発作が繰り返すことをレプリーゼといい、しばしば嘔吐を伴います（痙咳期）。③激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなりますが、その後の時折発作性の咳が出て、全経過約2～3ヶ月で回復します（回復期）。

咳やくしゃみなどによる飛沫感染や接触感染により感染し、その感染力は強く、患者や感染しても症状が軽いため百日咳にかかったと気づかない大人から、重症化しやすいワクチン未接種の新生児や乳児へ感染することも考えられることから注意して下さい。

<予防方法> 飛沫感染予防には、手洗い、咳エチケットです

外出時にはマスクを着用し、人混みはなるべくさげ、帰宅時には、手洗いを励行しましょう。また、定期予防接種があります。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

※百日咳は平成30年1月1日より全数把握疾患になったことから、「★全数把握感染症」に掲載していません。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆屋外活動の際にはダニに注意！

★日本紅斑熱や SFTS に注意しましょう

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋
※市販の虫除け剤（忌避剤）は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用して下さい。

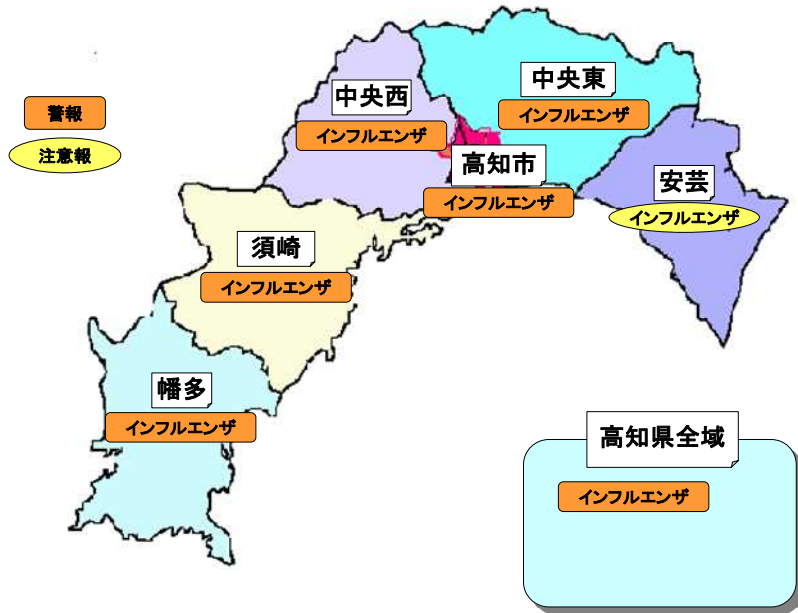
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↗	66.19	県全域、幡多、須崎、中央東で増加し、幡多、中央西、高知市、須崎、中央東で警報値を、安芸で注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	→	3.07	高知市で減少していますが、幡多、中央西で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.67	中央東、須崎で急減、幡多で減少していますが、安芸、中央西で急増しています。
RS ウイルス感染症	↗	0.53	安芸、幡多で急減していますが、高知市、中央西で急増、県全域、中央東で増加しています。
水痘	↗	0.33	安芸、中央西、高知市で急増、県全域で増加しています。

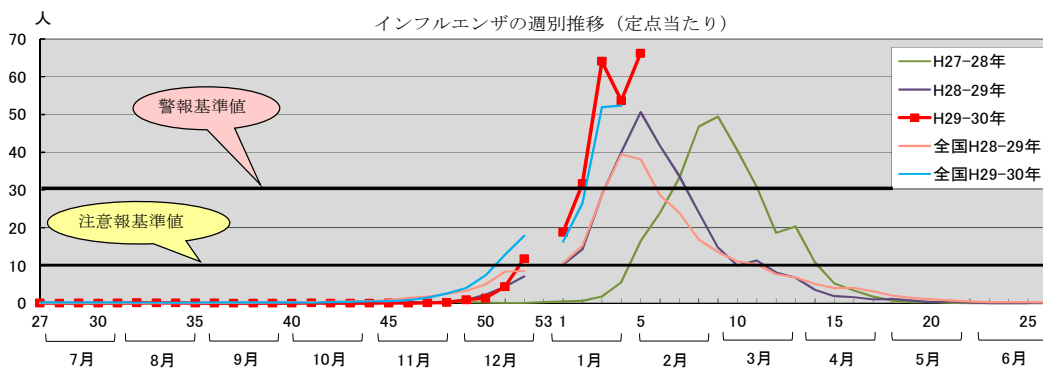
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

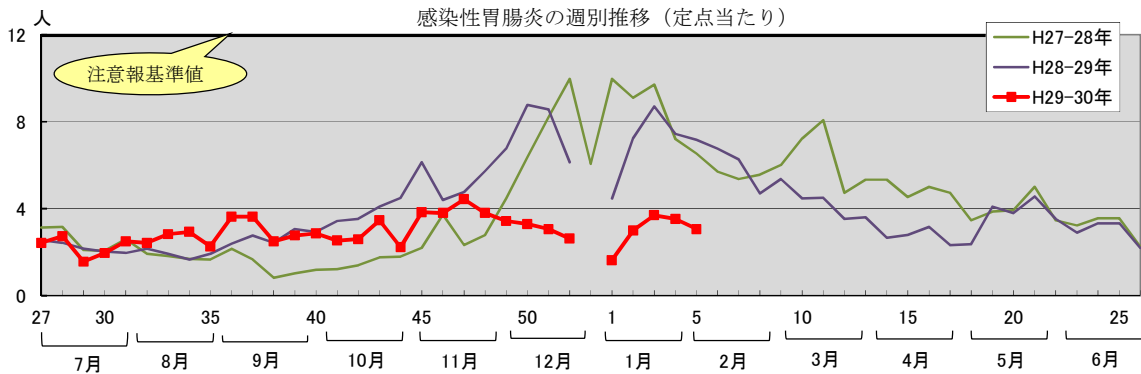
○インフルエンザ 第5週：66.19（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 66.19（前週：53.65）と増加し警報値を超えています。幡多 89.13（前週：56.50）須崎 61.00（前週：48.75）中央東 54.73（前週：39.45）で増加し、幡多、中央西 73.80（前週：73.20）高知市 71.44（前週：63.81）須崎、中央東で警報値を、安芸 26.50（前週：26.75）で注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第5週：3.07（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.07（前週：3.53）と横ばいです。高知市 3.00（前週：4.64）で減少していますが、幡多 4.00（前週：2.40）中央西 1.33（前週：0.67）で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。そのため、H28-H29年とH29-H30年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
5	気管支炎	38℃,咳嗽,気管支炎,	2	男	高知市	Human metapneumovirus
5	下気道炎	40℃,下気道炎,	2	女	幡多	Human metapneumovirus
5	インフルエンザ?	38℃,	2	女	須崎	Influenza virus A H1pdm09
5	インフルエンザ	39℃,上気道炎,	16	女	須崎	Influenza virus A H3 NT
5	インフルエンザ	40℃,上気道炎,	6	女	幡多	Influenza virus A H3 NT
5	インフルエンザ	40℃,	1	男	幡多	Influenza virus A H3 NT
5	インフルエンザ	40℃,咳嗽,上気道炎,	7	女	高知市	Influenza virus B/Yamagata
5	感染性胃腸炎	下痢,嘔吐,嘔気,	4	女	須崎	Norovirus GII NT
5	不明熱	39℃,咳嗽,	2	女	須崎	Parainfluenza virus 2
5	感染性胃腸炎	腹痛,	13	女	中央東	Sapovirus genogroup unknown
5	R S ウイルス感染症	39℃,咳嗽,気管支炎,	9ヶ月	男	中央東	Respiratory syncytial virus A

前週以前

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
4	不明発疹症	発疹,	2	男	須崎	Epstein-Barr virus
4	不明発疹症	37℃,発疹,	1	女	須崎	Human herpes virus 6
4	不明熱	39℃,咳嗽,	1	女	須崎	Human herpes virus 7
4	インフルエンザ	40℃,咳嗽,上気道炎,	11	女	幡多	Influenza virus A H1pdm09
4	感染性胃腸炎	38℃,嘔吐,嘔気,	1	男	中央東	Norovirus GII NT

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	7	60歳代 男	高知市
		1		70歳代 男	
		1		80歳代 男	須崎
4類	レジオネラ症	1	1	60歳代 男	高知市
5類	百日咳	1	18	40歳代 男	中央東
		1		5~9歳 男	須崎
		1		5~9歳 女	
		1		10~14歳 男	
		1		10~14歳 女	
		1		10~14歳 女	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	アデノウイルス感染性胃腸炎2例(1歳女、2歳男) インフルエンザA型5例、B型33例、A型+B型1例
	おひさまこどもクリニック	インフルエンザB型が92%
	田村こどもクリニック	1月にインフルB型、2月にインフルA型感染1例(5歳)
	野市中央病院小児科	インフルエンザ患者15例の内ワクチン接種は6例 ワクチン未接種9例
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症2例(7ヶ月男、1歳女) アデノウイルス1例(4歳男) カボジ水痘様発疹症1例(1歳男) インフルエンザ21例(A型6例、B型15例)
	けら小児科・アレルギー科	マイコプラズマ肺炎1例(6歳) 病原性大腸菌O-25腸炎2例(12歳2人) 病原性大腸菌O-1腸炎1例(17歳)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザA型29例B型51例(ワクチン接種済み12例) インフルエンザと溶連菌感染症同時感染1例(8歳男) 溶連菌感染症11例 水痘1例(4歳男:ワクチン1回済み)
	細木病院小児科	ノロ4例(8ヶ月男、0歳女、1歳男、9歳女)
	国立病院機構高知病院小児科	ロタウイルス胃腸炎1例(6歳女)
中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザA型32例(内須崎市2例:11歳男、15歳男) インフルエンザB型44例(内須崎市2例13歳男、36歳女、 いの町2例8歳女、9歳男、四万十町1例5歳女)
	石黒小児科	水痘1例(9歳女:予防接種2回済み)
須崎	もりはた小児科	百日咳5例(小学校流行有り) インフルエンザB型中心に流行中(A型48例、B型72例)
幡多	幡多けんみん病院小児科	hMPV陽性5例(6ヶ月男、1歳女、2歳男、5歳男、6歳男)
	さたけ小児科	インフルエンザ251例(A型73例、B型178例)

★全国情報

第3号（1月15日～1月21日）

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核309例、

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症15例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎4例、A型肝炎7例、つつが虫病5例、マラリア2例、レジオネラ症17例

5類感染症：アメーバ赤痢11例、ウイルス性肝炎2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症29例

急性脳炎24例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症15例

後天性免疫不全症候群13例、ジアルジア症2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症11例

侵襲性髄膜炎菌感染症1例、侵襲性肺炎球菌感染症64例、水痘（入院例に限る）4例

梅毒93例、播種性クリプトコックス症3例、百日咳38例、風しん1例

削除予定：風しん1例

報告遅れ：E型肝炎3例、つつが虫病10例、デング熱2例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症2例

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症9例、急性脳炎9例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8例、

侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）7例、梅毒49例、百日咳15例

★注目すべき感染症

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

インフルエンザは、全国約5,000カ所のインフルエンザ定点医療機関（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）から、患者数が毎週報告されている。2017/18シーズン〔2017年第36週（2017年9月4～10日）以降〕のインフルエンザの流行状況は、2017年第47週では定点当たり報告数は1.47となり、初めて全国的な流行開始の指標である1.00を上回った。その後、年明けより急激に増加し、2018年第3週（2018年1月15～21日：2018年1月24日現在）では定点当たり報告数は51.93となり、前週の定点当たり報告数（26.44）よりも増加した。なお、現行の監視体制となった1999年4月以降に全国のインフルエンザ定点当たり報告数が50を超えたのは、2004/05シーズンの2005年第9週（50.07）以来であった。2018年第3週では、全47都道府県における定点当たりの報告数は前週よりも増加し、鹿児島県（86.53）、宮崎県（84.97）、福岡県（83.99）、大分県（82.40）、佐賀県（69.64）、長崎県（68.23）、静岡県（67.92）、熊本県（66.26）、沖縄県（64.70）、高知県（64.08）の順に、九州を中心に西日本からの報告が多い状況が続いていた。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を受診した患者数を推計すると、2018年第3週は約283万人（95%信頼区間：266～300万人）となった。前週の推計値（約171万人）よりも増加し、近年のピーク時に観察される週間200万人前後の推計受診患者数を上回った。性別では、男性が約146万人（52%）で、年齢別では、5～9歳が約59万人、10～14歳が約40万人、40代が約29万人、0～4歳が約27万人、50代が約24万人、70歳以上が約23万人、30代が約22万人、15～19歳が約21万人、60代が約20万人、20代が約19万人の順で、全年齢群で前週よりも増加した。今シーズンのこれまでの累積の推計受診患者数は約837万人となり、年齢別では、15歳未満が39%、30～0代が21%、70歳以上が8%と推計された。

全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）においては、2017年第36週以降40例未満で推移していたが、2017年第45週（50例）から連続して増加し、2018年第3週は2,370例の報告であった。2018年第3週までに今シーズンのこれまでの累積入院患者数は7,682例となり、15歳未満が2,314例（30%）、70歳以上の高齢者が3,752例（49%）となり、推計受診患者数とは対照的に、高齢者が多かった。

インフルエンザウイルスの検出状況については、今シーズンはこれまでに、AH1pdm09が923株、AH3が361株、B型が565株（内訳は山形系統が504株、ビクトリア系統が39株、系統不明が22株）検出されている。直近の5週間（2017年第51週～018年第3週：2018年1月26日現在）では、B型が182株（内訳は山形系統が156株、ビクトリア系統が21株、系統不明が5株）、AH1pdm09が177株、AH3型が69株であり、B型の割合が高いことは注目される。

今シーズンのこれまでの抗インフルエンザ薬（オセルタミビル、ザナミビル、ペラミビル、ラニナミビル）に対する薬剤耐性株サーベイランスに関しては、A（H1N1）pdm09亜型でオセルタミビル・ペラミビルに対して耐性を有するウイルス株が4例（1.1%）検出されたが、A（H3N2）亜型とB型では、抗インフルエンザ薬耐性株は検出されていない。

例年のインフルエンザは、11月末から12月にかけて流行が開始し、ピークは1月末から2月上旬が多い。昨シーズンは第46週に流行が開始し、例年より立ち上がりがあったが、今シーズンも同様に立ち上がり早く、現在、全国的に報告数が多い状況である。また、例年はピークを越えてからB型の割合が増加する傾向があるが、今シーズンは、流行の開始頃からB型の割合が高い。過去にもB型の検出割合が最も多くを占めたシーズンが2000/01シーズン、2004/05シーズンなどにあり、患者および病原体の両面について、今後の動向について継続して注視する必要がある。また、近隣の韓国や中国においては、これまでのところB型の検出割合が最も高いことも注目される。

インフルエンザの感染予防策としては、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底すること、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）が重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等においては、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の工夫が重要である。なお、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害

があり、身の回りの生活が極度に制限される方、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

※来週の週報について

来週は2月12日(月)が祝日のため2月15日(木)に発行させていただきます。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

定点名 疾病名	保健所	第5週 平成30年1月29日(月)～平成30年2月4日(日)							高知県衛生研究所			
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(4週)	高知県(5週未累計) H30/1/1～H30/2/4	全国(4週未累計) H30/1/1～H30/1/28
インフルエンザ	インフルエンザ	106	602	1,143	369	244	713	3,177 (66.19)	2,575 (53.65)	259,063 (52.35)	11,253 (234.44)	728,022 (147.46)
小児科	咽頭結核熱		1	2				3 (0.10)	5 (0.17)	976 (0.31)	15 (0.50)	3,929 (1.25)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	1	33	4		6	50 (1.67)	44 (1.47)	7,976 (2.52)	212 (7.07)	25,759 (8.18)
	感染性胃腸炎	6	25	33	4	4	20	92 (3.07)	106 (3.53)	16,200 (5.12)	448 (14.93)	62,978 (19.99)
	水痘	6		2	1		1	10 (0.33)	5 (0.17)	921 (0.29)	34 (1.13)	4,457 (1.41)
	手足口病			4	1		2	7 (0.23)	15 (0.50)	724 (0.23)	64 (2.13)	2,533 (0.80)
	伝染性紅斑				1			1 (0.03)	1 (0.03)	251 (0.08)	6 (0.20)	975 (0.31)
	突発性発疹	1	1	5	1	1		9 (0.30)	5 (0.17)	1,013 (0.32)	38 (1.27)	3,914 (1.24)
	ヘルパンギーナ							(0.00)	1 (0.03)	57 (0.02)	1 (0.03)	241 (0.08)
	流行性耳下腺炎							(0.00)	1 (0.03)	459 (0.15)	1 (0.03)	2,214 (0.70)
	RSウイルス感染症		4	10	2			16 (0.53)	8 (0.27)	1,564 (0.49)	63 (2.10)	5,853 (1.86)
眼科	急性出血性結膜炎							(0.00)	(0.00)	5 (0.01)	(0.00)	24 (0.03)
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	1 (0.33)	398 (0.57)	4 (1.33)	1,901 (2.73)
基幹	細菌性髄膜炎							()	(0.00)	6 (0.01)	(0.00)	31 (0.06)
	無菌性髄膜炎							()	(0.00)	7 (0.01)	(0.00)	45 (0.09)
	マイコプラズマ肺炎							()	2 (0.25)	96 (0.20)	7 (0.88)	439 (0.92)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							()	(0.00)	4 (0.01)	3 (0.38)	15 (0.03)
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			1				1 (0.13)	(0.00)	31 (0.06)	1 (0.13)	95 (0.20)
計 (小児科定点当たり人数)	125 (36.00)	634 (59.29)	1,234 (79.52)	383 (78.45)	249 (63.50)	742 (94.93)	3,367 (72.45)			289,751	12,150 (263.83)	843,425
前週 (小児科定点当たり人数)	125 (35.75)	474 (45.17)	1,121 (72.63)	371 (74.86)	201 (51.75)	477 (61.50)		2,769 (60.02)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名 疾病名	保健所	第5週							高知県衛生研究所			
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(4週)	高知県(5週未累計) H30/1/1～H30/2/4	全国(4週未累計) H30/1/1～H30/1/28
インフルエンザ	インフルエンザ	26.50	54.73	71.44	73.80	61.00	89.13	66.19	53.65	52.35	234.44	147.46
小児科	咽頭結核熱		0.14	0.18				0.10	0.17	0.31	0.50	1.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.00	0.14	3.00	1.33		1.20	1.67	1.47	2.52	7.07	8.18
	感染性胃腸炎	3.00	3.57	3.00	1.33	2.00	4.00	3.07	3.53	5.12	14.93	19.99
	水痘	3.00		0.18	0.33		0.20	0.33	0.17	0.29	1.13	1.41
	手足口病			0.36	0.33		0.40	0.23	0.50	0.23	2.13	0.80
	伝染性紅斑				0.33			0.03	0.03	0.08	0.20	0.31
	突発性発疹	0.50	0.14	0.45	0.33	0.50		0.30	0.17	0.32	1.27	1.24
	ヘルパンギーナ							0.00	0.03	0.02	0.03	0.08
	流行性耳下腺炎							0.00	0.03	0.15	0.03	0.70
	RSウイルス感染症		0.57	0.91	0.67			0.53	0.27	0.49	2.10	1.86
眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00	0.01	0.00	0.03
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.33	0.57	1.33	2.73
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.01	0.00	0.06
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.01	0.00	0.09
	マイコプラズマ肺炎							0.00	0.25	0.20	0.88	0.92
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)							0.00	0.00	0.01	0.38	0.03
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)			0.20				0.13	0.00	0.06	0.13	0.20
計 (小児科定点当たり人数)	36.00	59.29	79.52	78.45	63.50	94.93	72.45			263.83		
前週 (小児科定点当たり人数)	35.75	45.17	72.63	74.86	51.75	61.50		60.02				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869
この情報に記載のデータは2018年2月5日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。